



# ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

令和2年2月5日(水)に群馬県社会福祉総合センター8階大ホールで群馬県都市計画協会と群馬県の共催で「ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム」が開催されました。

## ■ 基調講演「多様なライフスタイルを支える都市と交通の未来」

### ～都市と交通の真の融合が持続可能な地域をつくる～



大沢教授

人口減少と高齢化が同時に進行する中、これからは“まちのまとまり”を維持し、「持続可能なまちづくり」を考える必要があることから、日本大学理工学部土木工学科の大沢昌玄教授に都市と交通の連携の必要性についてご講演いただきました。

講演では、人口の推移や交通手段の構成、世代別外出率、公共交通の利用状況等、様々な資料を用いてそこから考えられることなどを丁寧に説明いただきました。魅力のある都市になるためには、都市と交通の融合が大切であり、駅やバス停をただの公共交通の施設としてではなく、地域に開かれた

空間にすることや近い将来必ずやってくる自動運転社会に備え、今から創造することが重要であるとお話いただきました。大沢教授、貴重なご講演をありがとうございました。

## ■ 事例発表1 都市計画区域マスタープランを見直します

都市計画区域マスタープランとは、群馬県が持続可能なまちづくりに向けて、広域的な観点から定める基本的な方針のことで、現状分析や将来予測のほか、区域区分や土地利用、都市施設の整備等の方針と各個別都市計画区域ごとの方針等から構成されており、概ね5年ごとに見直しを行っています。

今回土地利用と交通について見直しが行われ、①「まちのまとまりの形成」に向けて、構外の土地利用規制を厳格化する方針と②多様な移動手段を確保するために公共交通の強化・快適化に関する方針について明記しました。

このことについて、群馬県都市計画課の佐藤副主幹より説明をいただきました。



佐藤副主幹

## ■ 事例発表2 官民連携まちづくりについて

官民連携まちづくりとは、“官”の公共空間を“民”が活用し、地域経済を動かし、まちの経営課題を解決するための取り組みのことです。群馬県を取り巻く社会状況を取り上げながら、官民連携まちづくりの必要性について、群馬県都市計画課の高橋副主幹より説明をいただきました。全国で行われている活用事例のほか、群馬県の官民連携プロジェクトチームの取組についても紹介がされました。



高橋副主幹